

みんなの町の

議会から

2005.2 発行 No.1

加藤てるみ後援会

TEL 37-2288

FAX 37-2898

後援会発足

加藤てるみ後援会設立総会が先月三十日行われました。悪天候の中七十数名の方々から参加いただき、後援会規約・十七年度事業計画・予算等の審議、そして、役員を選出して頂き、承認されました。



新役員決定

- | | |
|-------|-------------|
| 会長 | 佐藤 留吉 |
| 副会長 | 三浦 仁右工門 |
| 会計責任者 | 斎藤 峰雄 |
| 代表幹事 | 佐藤 辰蔵 |
| 幹事 | 阿部 勇男 |
| | 阿部 静夫・阿部 春直 |
| | 阿部 彰子・佐藤 昭 |
| | 佐藤 稔・三浦 登 |
| | 栄喜 鉄郎・藤原 幸男 |

監事

- | |
|--------------|
| 稲葉 圭一・花山 桂 |
| 正木 末吉・熊谷 夕工子 |

事務担当

- | |
|-------|
| 根本 博介 |
|-------|

以上の方々には会報の配布・座談会の連絡などいろいろご難儀をおかけすることが多々出てくると思いますが、よろしくお願ひ致します。

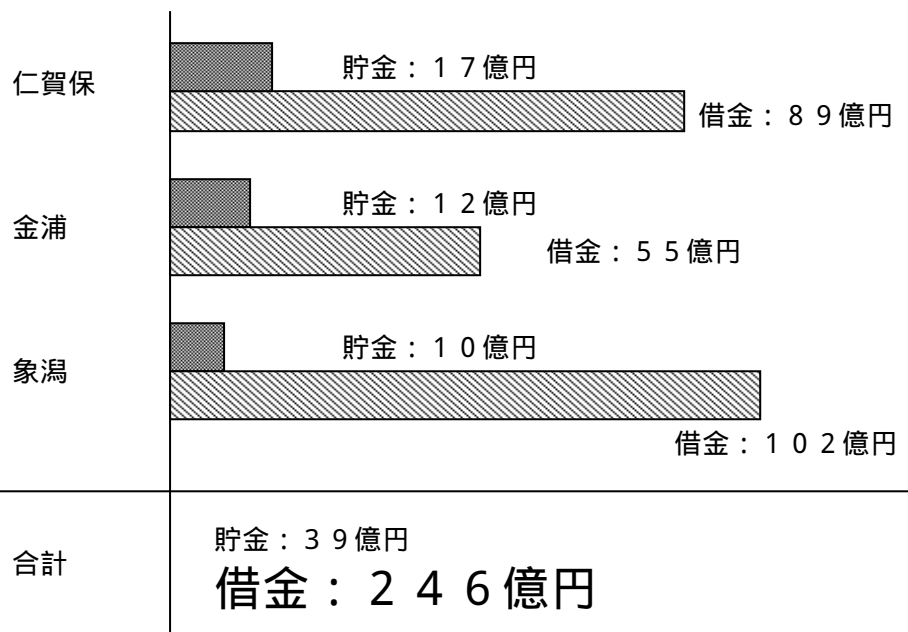
三町の合併、賛成多数で決まる

今月四日午前に三町合併の調印式を県知事立合のもと行い、午後には三町の議会がすべて賛成多数で可決しています。(反対一名)

新しい市の議員定数は二十四人となり、現在三町では四十八人の議員がいまので半数となります。合併期日は十月一日と決まりましたので、その日から五日以内に新しい市長を選ばなければなりません。今年には知事選もありますので忙しい一年になりそうです。

新しい市の議員選挙は来年の三月か四月上旬になるのではと予想されます。議員の在任特例七ヶ月と決まりましたので合併した日(十月一日)から四月三十日までは三町の議員四十八人が新しい市議会議員となり、合併後の市政を軌道に乗せる役割を担うことになります。

三町がかかえる借金



仁賀保町の五十年と 私達地域の歩み

誕生五十年

仁賀保町が誕生したのは、昭和三十年三月三十一日ですから、ちょうど五十年になります。この五十年で私たちの地域はどんなに変わったのか振り返って見たいと思います。

昭和の二十年代は戦後の混乱期で食べるものにも不自由し本当に苦しい時代でした。少ない耕作地、山林従事者の過酷な労働と少ない収入での生活を忘れる事はできません。そんな中で、戦後の復興は教育からと言うことで、この地域にも中学校が設立されました。

昭和の合併

昭和三十年代は復興期で生活も少しずつ良くなりましたが道路も従来のままで車の通行も容易でなく冬は全くの陸の孤島と化し、郡内では、ただ二カ所の僻地三級地でありました。

この頃の院内村議会の当地からの議員は工藤定四郎氏と佐藤仁平氏でありました。議会が始まると二人で歩いて巾山を越え出席したと言うことですから驚いています。小さな村の規模での僻地解消は不可能だったので、院内村、小出村、平沢町の合併が成立し現在に至っています。

平成の大合併

合併はしたものの、僻地の解消は交通からと言うわけで徐々に道路改修工事などにも着手され高度成長期に便乗して合併の効果が目に見えてきました。五十

年代は安定期を過ぎ、バブルの崩壊と共に六十年代の不況期に突入し税収の大幅な落ち込みによって、国家財政が厳しくなり、今回の大合併になった訳です。

私の主張

携帯電話の不通域の解消策について

この件に関しては、平成十三年の三月議会において一般質問を行い、その結果町としても鉄塔整備事業を進めるため町の実施計画の中に組み込みました。しかしながら人口が少ないと言う理由から電話会社がなかなかOKしてくれないのが実態であります。

来年度から国の方でも、制度見直しを行い、過疎地の通話エリアを広げるため人口など事業実施の条件緩和や電話会社の負担割合も少なく見直す方針を決めています。これからも、粘り強く運動して行きますので、皆様方のご理解とご協力を節にお願い致します。

編集後記

昨年は台風や地震など、天災による大変な一年でした。今年はずつがな一年でありたいと願っています。また、「にかほ市」誕生に向けて町の動向など目が離せない年になりそうです。

家族が一緒に読めるような紙面作りを心がけたいと思っていますので皆様からのご意見ご感想などもお待ちしております。

後援会だより発行に当たり皆様のご協力ありがとうございました。